

長野県のシダ植物雑記 (7)

大塚 孝一

K.Otsuka: Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (7)

37. イワヘゴ *Dryopteris atrata* (Wall. ex Kunze) Ching

本種は常緑性で、1 m前後になる暖温帯性のシダで、葉身は単羽状複生、オオクジャクシダによく似ている。葉柄から中軸にかけ黒褐色～黒色（オオクジャクシダでは褐色）のリン片を密につけ、また、胞子のう群は羽片全面に散在する（オオクジャクシダでは羽片の辺よりに散在）。

山形県以南の本州、四国、九州に分布し、長野県には従来知られていなかったが、木曽山口村から採集された。自生地は北西斜面のスギ植栽林の林床で、20株前後ありおう盛な生育をしている。

このスギ林には他にもシダの種類が多く、次のようなものがある。ヒロハトウゲシバ、オオキジノオ、キジノオシダ、ゼンマイ、イヌシダ、コバノイシカグマ、イワヒメワラビ、リョウメンシダ、キヨシミヒメワラビ、ヤブソテツ、サイゴクベニシダ、ベニシダ、オオベニシダ、クマワラビ、オクマワラビ、ナンゴクナライシダ、サイゴクイノデ、イノデモドキ、ウスヒメワラビ、カラクサイヌワラビ、サトメ

シダ、ホソバイヌワラビ、トガリバイヌワラビ、イヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヘビノネゴザ、シケチシダ、キョタキシダ、ハクモウイノデ、ミゾシダ、ハリガネワラビ、ヤワラシダ、ヒメワラビ、ゲジゲジシダ、シシガシラ、トラノオシダ、ノキシノブ、ヒメノキシノブ。

〔採集記録〕 木曽郡山口村下山口（大塚、1991、6、9 SHIN）。

38. ユノツルイヌワラビ *Athyrium* × *Kidoanum* Kurata

本種はホソバイヌワラビとヒロハイヌワラビとの雑種で、両者の中間的な形をしており、胞子は不定形である。外形的にヤマイヌワラビにも似ていて、1960年頃熊本県水俣市湯出（ユノツル）で発見され、当時ヤマイヌワラビ類似の新種とされた。

ホソバイヌワラビの葉の切れこみを少なくした感じで、ヒロハイヌワラビの葉を深く切れこませた感じでもある。また、小羽片の中肋の表面には、ホソバイヌワラビ状に刺状突起がある。羽軸、小羽軸の下面には細毛が密生する。

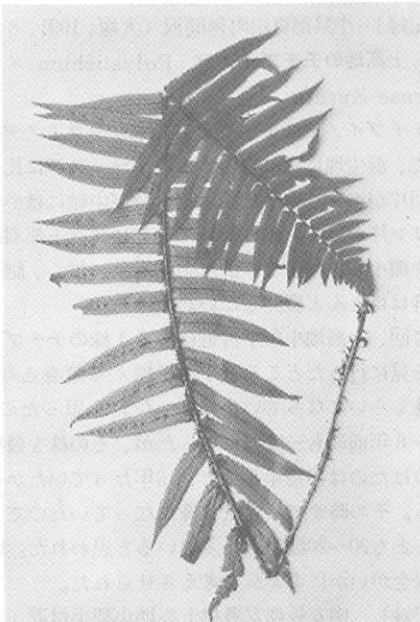


写真19 イワヘゴ



写真20 ユノツルイヌワラビ



写真21 クモイワトラノオ

本雑種は従来長野県からは知られていなかったが、先のイワヘゴ自生地と同所から採集された。両母種とも、ほぼ県南部にのみ分布する。下伊那南部ではホソバインヌワラビもヒロハインヌワラビもそれほど多くはないが、木曽南部にはホソバインヌワラビがかなり多いので、木曽の他の地域からも見出せるものと思う。この自生地には7〜8株のユノツルインヌワラビがある。

〔採集記録〕 木曽郡山口村下山口（大塚、1991、6、9、SHIN）

39. イノデ *Polystichum polyblepharum* (Roem. ex Kunze) Pr.

本種は暖温帯性のイノデ類で、本県からは木曽南部と下伊那南部から稀に見つかっている。今回、本県の中でも北にあたる長野市旭山のスギ林から採集された。

また、以前飯山市から本種を片親とする雑種のフナコシイノデが採集されているが、イノデの自生は知られていない。新潟県側ではイノデの分布が知られているので、県北部の飯山方面でも今後本種の分布が確認されるものと思われる。

〔採集記録〕 長野市旭山〜富士ノ塔山（大塚、1991、5、25、SHIN）

40. シケチシダ *Cornopteris decurrenti-alata* (Hook.) Nakai

本種は夏緑性で、葉身は20〜50cm前後のシダである。葉はやわらかく、羽片は無柄、小羽片の基部は羽軸に流れて、狭い翼ができる。

本州、四国、九州に分布し、本県では木曽南部に割合見られるが、県の内陸部にもその自生が知られるようになってきた。

今回、長野市の旭山のスギ林からも採集された。

〔採集記録〕 長野市旭山〜富士ノ塔山（大塚、1991、5、25、SHIN）



写真22 チチブイノデ

41. 角間沢のクモイワトラノオ *Asplenium × akaishiense* K. Otsuka

角間沢は小県郡真田町にあり、標高1,000m付近から烏帽子岳（2,066m）に続き、北西の谷筋をなしている。ここは、20年以上前から何度となく出かけた場所である。ここでは、クモノスジダとイワトラノオが着生している小さな岩があり、つどつど注意していたが、今回クモイワトラノオ（クモノスジダ×イワトラノオ）の自生を確認した。近年雑種形成がなされたものと思われる。

〔記録〕 小県郡真田町角間沢（大塚、1991、8、14）

42. 上高地のチチブイノデ *Polystichum × titi buense* Kurata

チチブイノデはホソイノデとイワシロイノデの雑種で、混生地に稀に自生する。ホソイノデに比べ下部羽片があまり縮小せず、葉柄及び中軸にはやや硬いリン片が付く。イワシロイノデに比べ下部羽片はやや縮小し、胞子のう群は中肋寄りに付く。胞子のう群はほとんど裂開しない。

今回、上高地小梨平付近にある1株のチチブイノデを見に行ったところ、1mを越える葉身となり、2株くらいになっていた。なつかしく思ったのは、7〜8年前にも一度見に行ったが、その株を最初に見つけたのは1975年8月で、16年たったからである。その時すでに立派な株になっていたのも、少なくとも20〜20数年はたっていると思われる。環境の保全がいかに重要かを考えさせられた。

〔記録〕 南安曇郡安曇村上高地小梨平付近（大塚、1991、9、16）